

宮本のある人が、ここより藤を切つて持帰り、氏神様に上げて置いて置いたところ、芽が出て生きづき、今も太い幹になっている。

この近くには、板碑(供養塔)が、何の言い伝えもなく、ひっそりと立っている。

(話者 古川 明)

日照田観音と大松

《新 田》

小中境之内は、小中村と梓衝村の境にある屋敷なので、その名ができたといわれる。その境の所の梓衝分に、日照田という地名がある。ここは小中村の落尻の水を掛けるので、いつも水不足で、日照田という名前が付けられた。

ここに梓衝新田の御堂があり、観音様が祀られてあった。森に囲まれ、松の大本もあった。昔は、新田の屋敷は、門無や玉根にも何軒もあったが、いつ頃から今の所に屋敷が集まったので、御堂も遠くなり、参詣も少なくなつて、御堂も、荒れるにまかせられていた。

日照田観音

